

探究 ひとを想い 先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所 www.wakayama-jc.net

Report

2019年10月18日(金) ダイワロイネットホテル和歌山

10月度例会 –シニア・クラブとの合同例会・懇親会–

地区大会準備委員会 委員長 田邊 武

シニア・クラブとの合同例会・懇親会をダイワロイネットホテル和歌山で10月18日(金)に開催しました。

合同例会では、パネリストとして公益社団法人白浜・田辺青年会議所の2014年度理事長、早稲田好則先輩、実行委員長の山本悌士先輩、2014年度和歌山ブロック会長の大城規史先輩そして、2014年度近畿地区協議会で地区大会運営委員会委員長を務めた水野孝彦君の4名をお呼びし『近畿地区大会を成功へと導くために』をテーマとし、ディスカッションをしていただきました。主管青年会議所のありかたや事前準備の必要性、どのようにシニア・

クラブや近畿地区協議会と連携したのかを実体験を元にご講演いただき、2020年度近畿地区大会和歌山大会に向けて我々の意識が一つとなる心に残る講演をしてくださいました。

また、特別会員と現役会員との親睦を深めるべく例会後に懇親会も開催しました。ご参加いただいた特別会員と現役会員の皆さま、そして、ディスカッションいただきました早稲田先輩、山本先輩、大城先輩、ありがとうございました。心より深く御礼を申し上げます。



山路理事長による挨拶



シニア・クラブ会長初田隆生先輩の挨拶



2020年度シニア・クラブ会長予定者
木綿紀文先輩による乾杯の挨拶



ディスカッション風景



咲間副理事長による謝辞



例会会場の様子

2019年10月10日(木)～13日(日) 富山県富山市

Report

全国大会富山大会

例会委員会 副委員長 出口清崇

2019年10月10日(木)～10月13日(日)、富山の地にて第68回全国大会富山大会が開催される予定でしたが、全国規模で甚大な被害をもたらした台風19号の影響を受け、多くのフォーラムやセミナーが中止、または日程変更となってしまいました。

台風が太平洋上を北上する最中の11日(金)、予定通り行われました総会、大懇親会に参加してまいりました。例年、全国より多くの会員が集う全国大会ですが、台風の進路や規模、速度をにらみながら、不参加という苦渋の決断を下したLOMも数多く、富山の街に集う同志たちも一様に不安の表情をにじませておりました。

その夜には本会より12日(土)13日(日)の式典、卒業式、フォーラム、セミナーは中止、13日(日)に式典、卒業式を行えるよう努力するとの発表がありました。全国的にも多くの交通機関で通行規制等が発生、富山まで辿り着けるか、そもそもそれ以前に身の安全は確保できるかという問題に直面し、和歌山青年会議所としても様々な可能性を鑑み、全国大会に不参加、それに伴い全国大会LOMナイトの中止を決断するに至りました。

卒業生と共に旅し思い出を共有する、そんな全国大会、全国大会LOMナイトを開催できなかったことは心残り

ですが、突然降りかかる不測の事態に適時決断を下していくことは、我々青年経済人にこそ求められる資質であり、この経験を糧にし、心新たに邁進してまいります。



フードフェスティバルにて



富山を愛しています



会場の様子



厳粛な総会の様子

2019年10月20日(日) ホテルグランヴィア和歌山

和歌山ブロック協議会大総括及び卒業式

和歌山ブロック協議会経済活性委員会 委員 松阪 考

10月20日(日)、ホテルグランヴィア和歌山で和歌山ブロック協議会JCフォーラム・大総括が開催され、経済活性委員会が担当しました。JCフォーラムでは和歌山大学経済学部足立基浩教授とゼミ生の皆さんをお招きし「福祉のまちづくり」をテーマにご講演いただき、グループワークを行いました。グループワークでは各テーブルに県内8 LOMから出席していただいたメンバーと足立教授のゼミ生が1名ずつ加わっていただき、身近な福祉の問題点と解決策を話し合い、テーブルごとに意見を集約し、ゼミ生に発表していただきました。このフローは我々が普段委員会で話し合い、一つの方向に向かう作業にも似ており、各グループとも遅延することもなく、素晴らしい意見を発表していただきました。

大総括においては、県内各LOMの理事長が今年度、自

らのLOMで行った事業を各人5分の持ち時間でプレゼン形式で発表していただきました。LOM名の50音順での発表でしたので和歌山青年会議所は最後の発表となり、事業本数が多い中で他LOMと同条件での発表でしたが、山路理事長が事前に入念に準備をしてくれていたこともあり、時間内に充実した内容の発表を終えられました。

また、県内で拡大率が最高だったということで有田青年会議所が表彰されました。

最後に和歌山ブロック協議会小椋会長が今年1年を振り返り、締めくくりました。

1年間、各事業でパワーポイントを担当しましたが、これまで知らなかったような機能を知る機会となり、今後も得た知識を活かしていきたいと思えます。



本年度の事業を披露する山路理事長 次年度への意気込みを語る松下理事長予定者



小椋会長の総括



和歌山LOMで記念撮影

2019年11月3日(日) 養翠園

『あさも会』月釜茶会

一般社団法人和歌山青年会議所茶道同好会 会長 井川 惇

11月3日(日)、和歌山青年会議所茶道同好会(表千家)の会員である太田 安彦先輩が、「あさも会」のお茶席を担当され、茶道同好会メンバー一同で客人をもてなしました。

あさも会は、正会員400名を誇り、紀州徳川家の大名庭園として知られる国指定名勝「養翠園(ようすいえん)」(和歌山市西浜)で年に10回開かれる月例茶会です。

当日は心地よい秋晴れの空のもと、朝9時から夕方まで、亭主の太田先輩のもと10席の茶席を行い、入れ替わり300名にのぼるお客様にお越しいただき、歴史ある空間で抹茶を楽しんでいただきました。

茶道同好会は創立以来31年目を迎えました。来年にも

大きなお茶会などを計画しており、今後もより一層、活躍の場を広げてまいります。



研修事業

会員拡大委員会 委員 土谷尚之

今年度、和歌山青年会議所に入会した新入会員が初めて事業を担当させていただきました。

児童養護施設の子どもたちと一緒にオリジナルの巾着を作ったり、紙飛行機を作ってどれだけ飛ばせるかを競ったりして交流しました。私自身はこのような境遇の子どもたちと触れ合う機会はこれまでなかったのですが、それぞれ複雑な事情を抱えている子どもたちにとって、楽しく思い出に残る一日になり、また将来の和歌山を背負う一人として立派に成長してもらいたいと思いました。和歌山青年会議所の一員として、青年経済人として、意義を感じるこ

のできる素晴らしい事業になりました。

また、知り合って間もない新入会員同士ではありますが、事業を構築したり、当日ともに事業にあたることで、お互いのことを知ることができ、同期入会者としての絆を感じることもできました。

私自身、初心を忘れないためにも来年も必ず研修事業に参加したいと思います。何度も会議を開いて事業の内容を構築し、そして事業当日のサポートをしていただいた現役メンバーのみなさま、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



新入会員を率いる玉置委員長



初めての事業に緊張の面持ちの新入会員たち



優勝チームに表彰を



みんなで巾着を作りました



大きな飛行機もよく飛んだね！



紙飛行機の飛距離を競い合います



みんなで記念撮影

キックオフミーティング

2020年度事務局 事務局長予定者 谷澤輝也

本年度の運動も残すところ2か月となった10月24日(木)、勤労者総合センターにて2020年度キックオフミーティングが開催されました。当日はあいにくの雨でしたが、取り纏めを行っていただいた委員長予定者の皆さまのご協力もあり、本当に多くのメンバーの皆さまにご参加いただくことができました。ありがとうございました。

私は事務局長予定者として開催に至るまでの会場設営に携わりました。加藤真也事務局次長予定者が率先し、セクレタリー予定者の皆さまが戸惑いながらも一丸となって協力して設営にあたっていたおかげで、無事に開会することができました。

松下正典理事長予定者より2020年度の方針として理事長所信(案)、基本理念「矜持」、スローガン～果敢に挑戦し、成長の糧にせよ～が発表され、次年度に向けていよいよ動き出すのだということを実感し、気持ちを新たにしました。また、各室長予定者より、各委員会メンバーの紹介が行われ、委員長予定者の皆さまから2020年度への意気込みをお聞きすることができました。3人の私の同期が熱い想いを述べているのを見て、とても誇らしく感じました。

私も事務局長予定者としてご挨拶をさせていただきました。私自身まだ入会3年目であり、JCIのことで分からな

いことも多々あります。ですが、これから事務局運営の責任者として、セクレタリーの皆さまに背中を見せなければならぬ立場にもなりましたので、今以上に頑張ろうと思った一日でもありました。2020年度は主幹として近畿地区大会和歌山大会が行われる年でもあります。松下理事長予定者の顔に、そして一般社団法人和歌山青年会議所の看板に泥を塗ることのないよう、事務局スタッフが一丸となって「矜持」を胸に頑張っています。



理事長所信(案)を聞くメンバー



山路直前理事長予定者の挨拶

次年度への意気込みを語る松下理事長予定者



眞下委員長予定者率いる会員開発委員会メンバー



集合写真

出向者報告

和歌山ブロック協議会財政局 議長 堀井 卓

昨年のLOMで務めさせていただいた財政規則審査会議議長に続き、本年度は和歌山ブロック協議会において財政局局長を仰せつかり、すべての事業がより良いものになるよう、財政面・コンプライアンス面の精査を行っています。昨年と同じ財審なので議案書の精査やブロック予算・決算の精査など基本的な職務は変わりませんが、最終12月に外部監査を受けなければならないという点において、責任

が大きいと感じます。

担当の事業等がない裏方の委員会になるため、進んで出向をしたいと思うメンバーは少ないと思いますが、運動構築や議案書の書き方などを詳しく学べるので、ぜひ多くのメンバーに出向していただきたいと思います。

残り3か月となりましたが、最後まで職務を全うし、和歌山青年会議所のレベルの高さをアピールしてまいります。

和歌山ブロック協議会 事務局 スタッフ 松原翔太

入会2年目から和歌山ブロック協議会の事務局にスタッフとして出向しております。各LOMから和歌山ブロックに出向され事業の完遂に尽力されている皆様の熱い想いが自分にとっても刺激となり、「こんなにも和歌山を良くしていこうと思ってる人がいてるんだ」という気付きのきっかけになりました。粉河で開催されたブロック大会に参加して自分自身が楽しませてもらったり、初めての議事録作

成に戸惑ったり、各LOMの理事長様方のお考えやご意見を間近で聞くことができたり、それぞれがかけがえのない経験となりました。

私にとって和歌山青年会議所での活動はまだまだ長いものとなりますが、この経験や刺激を忘れずに、これからの青年会議所活動に活かしていこうと思います。

和歌山ブロック協議会経済活性化委員会 委員 松阪 考

和歌山ブロック協議会経済活性化委員会では4月7日に行われた和歌山ブロック拡大セミナーの設営を担当いたしました。日本青年会議所より講師をお招きし、会員減少の現状や状況を打開したケーススタディを和歌山ブロック所属のメンバーとともに学びました。

5月12日に開催された第50回和歌山ブロック大会那賀大会では記念事業として「地域と共に考えようSDGs」

を担当しました。こちらでは有識者によるパネルディスカッションと吉本興業所属のお笑い芸人による公演を通じてSDGsをわかりやすく学ぶことができました。

10月20日に開催されたJCフォーラム大総括では会場の設営とフォーラムの運営を担当しました。各事業の資料やスライドの作成を主に担当しましたが、作業を通じて多くの気付きや学びを得ることができました。

和歌山ブロック協議会会員交流委員会 副委員長 山本晴輝

和歌山ブロック協議会会員交流委員会では、ブロック大会での和歌山逸品フェスタの開催、大懇親会の設営、そして近畿地区大会亀岡大会でのブース出展をし和歌山の魅力を県内外へ発信してきました。

5月に開催された和歌山ブロック大会那賀大会では、和歌山県各地から魅力的な逸品ブースが集まり賑わいを見せました。また当委員会では、SDGsの推進もしておりますので逸品フェスタ会場内で、よしもとSDGsスタンプ

ラリーを開催することによりSDGsの取り組みを広く周知できたと思います。

また、7月に行われました近畿地区大会亀岡大会では、黒沢牧場のアイスクリームをブース出展し近畿各地の方々へ、和歌山の魅力と存在感をアピールすることができました。本年、当委員会に出向させていただき、和歌山の魅力や資源を再認識することができ大変実りある学びになりました。

第22回アゼリア賞の支援

例会委員会 委員長 田代紘規

第22回アゼリア賞の支援を、本年度は例会委員会が担当させていただきました。受賞者である「まちなか実験室こどもラボ」様のご希望によりプロのカメラマンの方と子供たちで、ムービーを作成することになりました。ムービーの内容を子供主体で構成し、子供たちの目線で問題を見つけ出し解決するストーリー性のあるムービーとなりました。作成期間は10週間で、例会委員会は毎回、教室に足を運び、撮影を見守りました。子供たちと触れ合う中で、真剣に撮影に取り組む姿を見て、大人である私たちもたくさんのお話を学ばせていただく機会となりました。まちなか実験室こどもラボ様は、和歌山市の子供たちに主体的、対話的で深い学びに対応している課題解決型プログラムを実施しています。子供たちが「やりたい」と思ったことを、プロフェッショナルや仲間と協力して試行錯誤を繰り返す中で考え抜く力、相手の考えを聞く力、根気強さ、表現力を育む指導に熱意を持って取り組んでおられます。ムー

ビーをとともに作成する中で、「まちなか実験室こどもラボ」様の代表者である岡崎大輔様の熱意や和歌山に対する想いを形にできたことを嬉しく思います。



授賞の様子



「まちなか実験室こどもラボ」代表者岡崎大輔様



受賞ムービー



映画作りの様子

12月度告知

12月定時総会

2019年12月18日(水) 18時30分(受付開始18時00分)
ルミエール華月殿5階八州の間

12月定時総会は2019年度総括で一年間の運動を締め括り、2020年度役員等(案)、事業計画(案)並びに予算(案)の承認を得る重要な場であります。

新たな1年につながる大切な場となりますので、できる限り遅刻がないよう、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。
(総務委員会 委員長 橋野 史)

歳末忘年会

2019年12月18日(水) 20時00分(総会終了後)
ルミエール華月殿

本年度を楽しく締めくくり、会員間の親睦を深めるべく、歳末忘年会を開催します。和歌山青年会議所の今年度最後の事業となりますので、ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、ご参加の程よろしくお願い申し上げます。
(例会委員会 委員長 田代紘規)

12月 スケジュール

4	水	第23回財政規則審査会議	事務局
6	金	第24回三役会	(株)ナルセ
9	月	理事会	商工会議所
18	水	定時総会・歳末忘年会	ルミエール華月殿
		近畿地区正副会長会議	京都
19	木	第24回財政規則審査会議	事務局
		近畿地区役員会議	京都
26	木	第25回三役会	(株)ナルセ
27	金	事務局大掃除	事務局
28	土	事務局大掃除	事務局

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「総括」編

千賀副委員長：企画のきっかけは？

石原委員長：当初は別の企画を考えていたんですが、いろんな検討の結果、前年度の企画を継続することになりました。前年度はものづくりの企業にスポットを当てていましたが、ものづくりにこだわらず幅広い企業を取り上げさせてもらうことになりました。

辻本委員：取材先はどのような基準で選んでいたんですか？

石原：和歌山市に営業拠点がある企業であることを前提として、社会貢献活動をされている企業に注目して当初は選んでいただきました（『菱岡工業』編、『信濃路』編など）。取材を続けていくうちに、青年経済人にとって興味のあるような点も加味するようになりました。例えば100年以上続いている企業のお話（『大彦株式会社』編）、短期間で株式を上場された企業のお話（『農業総合研究所』編）、20代で家業の銭湯を継いだ中本様のお話（『幸福湯』編）などは面白い記事になりそうかなと思って選びました。

武田委員：取材先は誰かの紹介が多かったのですか？

石原：ほとんどは紹介してもらいましたが、『花山温泉～紀泉温泉修験道～』編と『幸福湯』編だけは、他のメディアでお見かけしていいなあと思ったので、つともなく直接連絡を取って取材をお願いしました。なぜかどちらもお風呂屋さんでした。

眞下幹事：取材先10名中5名が女性でしたね。

石原：その点はまったく意識していませんでした。1月号から『菱岡工業』編、『信濃路』編、『城プロジェクト』編と3か月続いたときに女性にばかりお話を伺っていることに気付きましたが、結局は面白い記事になりそうな方の話を聞きたいと思って選ばせていただいた結果です。

柴田委員：取材にあたって工夫したところはありますか？

石原：事前に取材のテーマをお伝えしておきました。また、みなさんお忙しい中で時間を頂いているので、少しでも効率的に取材できたらと思い、できるだけ事前に情報を仕入れました。メディアなどに記事がある方の場合は一とおり読み込んでから取材に行きましたね。

千賀副委員長：特に印象に残った企業はありましたか？

石原：『加太まちづくり株式会社』編ですね。加太という地域を活性化することを目的として株式会社を設立するというのが面白い発想だなと思いました。取材のときもこちらから質問しなくてもOBの森田さんと稲野さんが熱い想いをひたすらマシンガンのように話されるので原稿にするのが大変でした（笑）。

加藤委員：企業ではなく県の運営するセンターを取り上げたことも。

石原：『わかやまmine』編は企業ではなかったので番外編としました。私自身もボランティアで設立のお手伝いをしていて、もっといろんな方に知ってもらいたいと思って。この回だけは取材しなくても原稿が書けたので、楽できました（笑）。今年は性別

罪に関して無罪判決が何回も出てマスコミでも取り上げられることが多かったのでタイムリーな記事になったと思います。SDGsの紹介もできました。

中井副委員長：高校野球を取り上げたこともありました。（『智辯和歌山野球部』編）

石原：プロ野球という生存競争の激しい世界で10年以上も現役を続けられたという経験はすごいものですし、野球というひとつの道に打ち込んで来られたことで得られた中谷監督の教訓は広く通用するものだと思います。選手一人ひとりが自分で考える力を養うことが大事であるとか、一流選手はみんなかっこつけられる人であるといったことは参考になりました。

平山委員：取材が終わって、もう少しこうしたら良かったなど、やり残した点や改良したら良かったと思う点などはありますか？

石原：取材する役割と原稿を書く役割を別の人がするわけにはいかないで、なかなか委員会のメンバーと作業を分担することができませんでした。もっと委員会全体を巻き込んでみんなでやってる感を出したかったんですが・・・

中井副委員長：取材先に和歌山青年会議所の魅力をお伝えすることはありましたか？

石原：OB以外の方には和歌山青年会議所のことをお聞きしましたが、ほとんどみなさん何かしらご存知でした。特に『城プロジェクト』編の川島様からは外部への発信という意味では強い力を持っているとおっしゃっていただきました。諸先輩方が築かれてきた長年の実績の重みを感じた瞬間でしたね。

小谷副委員長：1年間を通じた感想は？

石原：記事を読まれる方に何かしら学びになるようなことを引き出して、それをお伝えしようということをお心掛けしました。会内でのアンケートの結果がおおむね好評だったのが素直に嬉しいです。どんなに素晴らしい事業をしても知らなければ意味がありませんので、広報活動は極めて重要だと思います。そこに関わることができたのはいい経験でした。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL : <http://www.wakayama-jc.net>
mail : office@wakayama-jc.net

